

# 愛育ながさき

Ai-iku-Nagasaki 34号

発行所/一般社団法人 長崎県手をつなぐ育成会  
発行者/竹内隆伯 発行日/平成 29 年 9 月 15 日  
〒852-8104 長崎市茂里町 3-24  
長崎県総合福祉センター県棟 4F 408 号  
Tel:095-846-8730/Fax:095-846-8738  
E-mail:info@ikuseikai-nagasaki.jp

## 特集：知る見るプログラム

### 第57回九州大会

長崎 LOVE 地域で育成会～新上五島町～



## 平成29年度 定期総会 6/17(土)長崎原爆資料館ホール

平成28年度の事業報告及び決算報告、平成29年度事業計画及び予算の審議終了後、本年度は役員改選の年であり新理事が総会において承認されました。また、今回は4期にわたり会長を務められた甲田裕氏が辞任の意を表明されていたため、それを受け新理事会で新会長を選出しました。その結果、島原市手をつなぐ育成会の竹内隆伯氏が会長として、また、竹内新会長より、長崎市手をつなぐ育成会の谷氏(再任)と長与町手をつなぐ育成会の山口朝三氏(新規)が副会長の指名を受けました。



甲田氏からバトンタッチ

また、甲田前会長におかれましては、これまで県育成会の発展のために並々ならぬご努力ご尽力を重ねられてきました。その業績に心から感謝を申し上げますとともに、今後のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本当にお疲れさまでした。

### 新会長あいさつ

定期総会において、県の会長という重責を甲田会長より引継ぎましたが、本当に私で良かったのかと、未だに自問自答しています。私たち育成会が置かれている社会状況は障害福祉サービスもある程度整い、生活全般について何か困ることがあれば、身近な相談支援事業所へ相談することで解決できる仕組みが構築されています。

また、様々な福祉の情報についてもインターネット上から情報を入手することができるようになり、育成会の役割が見えづらくなっているのかもしれませんが。(次ページへ続く)



(左から)谷副会長・竹内会長・山口副会長



各地域で若い会員の入会がままならず、このままでは会そのものの運営存続が危惧されるとの声も聞こえてきます。

全国手をつなぐ育成会連合会の久保会長は2017年3月3日の育成会フォーラムの講演の中で、これからの育成会運動についてこう述べています。組織の老朽化はどこでもある、長年運営してきた組織は、そのまましていると自然と老朽化していく。対策は3つ。①老朽化を受け入れる⇒「少しは抵抗」しても「無駄な抵抗はしない」●消滅に向かう。②リセットする⇒「個人」や「器」ではなく基本的な考え方や価値観を転換する●世代交代する③改革する⇒「新結合」「新機軸」●解散し新たに立上げる。そして、まずこのままで良いか気づくこと、気づいたら立ち上がること、それに共感したら支え合うこと、そして決断すること。

上記①②③以外にも考え方があるかもしれませんが、新しい方向性を模索する時期であることは間違いないと思っています。

私は総会での就任時に育成会活動とは何かと聞かれたときには、全体的なことを考えるのではなく、まずあなた自身が困っていることや課題を声にすること、それが運動の始まりであると話しました。育成会運動の始まりは東京の3人の母親の困りごとを訴えたことから始まり、現在の全国組織にまで広がった訳です。これが原点であり運動の基本と考えています。私たち県育成会も地域育成会と共にコツコツと一歩ずつ進むのみです。(新会長・竹内 隆伯)

## 「家族支援プロジェクト」紹介 ～ぜひ、あなたの地域でも～



「家族支援プロジェクト」とは、「まず親自身が変わろう」をテーマに、厚生労働省の補助金を得て全日本育成会が2008年に始めた活動です。

単なる座学ではなく、親やきょうだい、施設職員などの参加者が共に考え、話し合い、体験するワークショップ形式の講座は、ファシリテーター(会を先導する人)を養成して、全国から各地の育成会へ広がり、長崎でも2009年にファシリテーターが誕生、2010年からのべ50名のファシリテーターが育成会や事業所、特別支援学校など県内各地で活動してきました。

「家族支援とはどんなもの？」総会出席のみなさんにも、少しだけ体験してもらいました。

まずは導入の「じゃんけんゲーム」。勝てるように、あるいはわざと負けるように工夫してもらい、緊張をほぐします。次に、プライバシーを守り、他者を尊重しながら「親が自身を客観視する」という、講座の目的とルールを説明。その後、スライドを見る学習プログラム「家族にも支援が必要です」「ライフプランづくりのすすめ」「心に栄養を注ぎましょう」「きょうだいのこと」など主だったテーマを紹介。そして、質問に答えたり、話し合ったりする点検ワークでは、数ある中から「親子関係チェック」を体験。17の質問のうち、あてはまるものに○をつけると、「自分の考え方の傾向」がわかる、というもの。結果に苦笑いしたり、自身を肯定的に捉えるヒントに、うなずく姿も見られました。

最後に、障害者本人をとりまく生活環境(福祉サービスや社会の仕組みなど)を図式化したスライドを見ながら、保護者の集まりや育成会の活動が、困り事や将来の安心のための対策を考えたり、要望を行政に挙げていくことで、社会を変えていく力にも成り得る可能性を感じてもらいました。

体験した会員さんから「こんな活動とは知らなかった。とくに、若いお母さん方や今困っている保護者にこそ、聞かせたい内容だった」「育成会らしい、良い取り組みだと感じました」など、好評でした。



# 本人部会「知る見るプログラム」研修会

昨年8月に九州地区手をつなぐ育成会長崎県大会で第5分科会本人ワークショップ「みんなで知る見るプログラム」が開催されました。このプログラムの普及と県内の参加者を増やすことを目的に、昨年4月に「みんなで知る見るプログラム」研修会を開催しました。その時の参加者の「またやってほしい」という熱い希望を受けて、今年も7月22、23日(土、日)諫早青少年自然の家で1泊2日の研修会が開催され、30名の本人と16名の支援者が参加しました。

最初は緊張気味だったみなさんも、ワークが進むにつれ笑顔が増え、口も滑らかになり、話が弾んでいました。レクリエーションでは、支援者を巻き込んでジェスチャーゲームや好きな芸能人を覚えるゲームで、参加者と職員の距離も縮んだようです。(次ページへ続く)

## プログラム

### 1日目

- ・「みんなと知り合いになろう」
- ・「〇×クイズ」
- ・レクリエーション
- ・「私の歴史」
- ・「さいころトーク」

### 2日目

- ・「好きなもので集まれ」
- ・「イヤって言うてみよう」
- ・レクリエーション
- ・「言いかえてみよう」



「さいころトーク」は、選んだカードに書かれたことに答える一番人気のワークです。



難しいところはグループのメンバーや支援者が手伝います。



「〇×クイズ」では質問に〇×で答え、なぜそう思うのか理由を發表します。〇でも×でもその人なりの理由があり、「なるほど～」と唸るような意見が続出でした。



みんなの前で自分の意見を發表します。みなさん、緊張しながらも誇らしげな表情です。

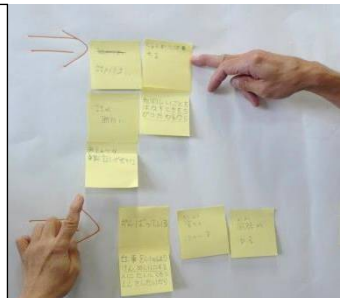


夜の交流会ではジュースやお茶で乾杯！



「イヤって言うてみよう」のワークでは、自分で服を選ぼうとしているのに親が勝手に決めるという状況で、どう言うかをロールプレイで行ないます。なりきって演技する人もいて、拍手が起こりました。

「言いかえてみよう」は、ちょっと嫌な言葉を受け入れやすい表現に変えてみよう、というワークです。





「〇×クイズ」で『手帳は人に貸してもよいか?』という問題では「お母さんや職員さんには貸すことがあるから〇」「違法に使われることがあるから×」など、みなさん自分なりの理由を考えて答えを発表されていました。「私の歴史」というワークでは学生時代にいじめに遭った体験を語る方が数名おられ、「いじめられてずっとトイレに閉じこもっていた。思い出したくもない。」と言いながらも話してくれ、つらい過去を乗り越え「今は楽しい」と話されるその笑顔に胸が熱くなりました。「楽しかった!」「難しかった。」「もっと積極的に話したかった。」「いつか自分たちで考えて、自分たちでやりたい。」など様々な感想が上がりましたが、「これからもみんなと交流する場を作ってください。」という言葉に、障がいのある人たちが集って交流したり、自分の思いを語る場を求めていることが伝わり、この研修会の継続の必要性を感じました。今年はながさき知的障害児者生活サポート協会より助成を受け開催しました。ありがとうございました。

(長崎県手をつなぐ育成会 本人活動サポーター マネージャー 吉井裕子)

## 長崎県育成会 本人部会「長崎きずな」連絡協議会

長崎県手をつなぐ育成会では県の本人部会として佐世保市、諫早市、島原市、西海市、長崎市の本人部会とNPO 法人ふれあいネットワークピアの各支部の代表で「長崎きずな」連絡協議会を組織し、年4回話し合いを開催しております。各本人部会の活性化を目指し、情報交換をしたり、九州地区育成会の大会の本人部会発表の代表を決めたり、長崎県の障害福祉課への要望を話し合ったりしています。最近では本人部会同士での交流も見られるようになりました。また、昨年開催の「みんなで知る見るプログラム」諫早合宿が好評だったため、今年度も計画に入れ実施が決定しました。現在は支援者がサポートをしながら活動を進めていますが、今後はもっと自分たちでできることを増やし、さらに積極的に県内に活動を広げて行けるような会になってほしいと思います。

## アビリンピック



7月9日(日)に開催された、第39回長崎県障害者技能競技大会(アビリンピック)に、初めて出席しました。会場は長与町にある県立高等技術専門学校で、競技種目毎に、家具に5名、ワードプロセッサに3名、表計算に3名、喫茶サービスに22名、ビルクリーニングに16名で計49名の参加者でした。競技時間は、各種目で異なり、2時間30分～3時間30分で行われ、終わり次第各種目での表彰となりました。選手たちは今まで練習した成果を十分に発揮していましたが、一生懸命競技している姿を見ていると、見ている側としても拍手したくなる思いでした。特に喫茶サービスは、お客様として参加したかったのですが、参加者が多かったため参加することはできませんでした。今度、機会がありましたら是非参加したいなあと思いました。選手の皆さんお疲れ様でした。(副会長 山口朝三)

## ♡♡♡「わたぼうしコンサート IN ながさき2017」♡♡♡

さる8月20日 長崎市市民会館文化ホールで「わたぼうしコンサート IN ながさき2017」が開催されました。199の応募作品のうち、西海市の平山圭一さんの「えがお」がわたぼうし大賞に選ばれました。絵を描くことがあったから素直な心でいられたというピュアな詩と美しいコーラスの入った素敵な曲でした。県育成会からも審査員として参加させていただきました。(谷 美絵)



# 第57回九州地区手をつなぐ育成会 佐賀県大会

真夏日が続く8月26日～27日両日、佐賀市文化会館において「第57回九州地区手をつなぐ育成会」佐賀県大会が開催されました。長崎県からは本人さんたちも交えて総勢220名の方たちが参加しましたが、昨年の長崎県大会に続く大会ということもあり、長崎県勢は勢いのある参加となりました。

本人分科会を含めて4つの分科会へ参加された方々に感想をいただきました。

## 第1分科会「育つ」と記念講演

テーマが「子供が主役」で、自閉症・情緒障害学級担任の、肯定的に子供を捉え、一人一人に合った指導をされ、時には地域、医療との連携をされている話。「高等部を卒業したら親父の出番」を掲げ、多機能型事業所を運営している保護者からは、地域を巻き込んで取り組むには同友会等などのネットワーク作り、行政への働きかけ、就労、介護、GH、余暇支援、一芸を持つ退職者親父の指導員採用など、興味津々な盛りだくさんの話。宇城市の親の会では、芸術やスポーツの余暇活動支援や、行政が積極的にバックアップしてくれる話。福岡の親の会では、ボランティアの協力を得て親離れ子離れを図ったキャンプ等の取り組みの話。第1分科会の感想としては、教育現場では、特別支援計画プログラムが確立され、事業所では「ゆりかごから墓場まで」を理想に、親の会は子供たちが地域で明るく楽しく生きる取り組みができたらと感じた実りある大会でした。

最後に何といっても、2日目の上智大学の塚教授の講演には感銘を受けました。障害者の保護者でもあり、事業所勤務20年の経験もあり、法律制定関係にも関与されており、親の立場からの事業所、法律についての率直なコメントにとっても感動しました。

諫早市手をつなぐ育成会 土井 美由子

## 第2分科会「暮らす」

この分科会は「もっと見たい、もっと聞きたい」と強く思えるものでした。第2分科会は「暮らす」という大きなテーマのもと、今回は成年後見制度をキーワードに発表と議論が行われていました。法人としての立場、施設としての立場、親としての立場として。また「親であり、なおかつ施設や法人の関係者」という方が多い育成会ならではの、それらが入り混じったその人なりの立場での発表や議論は、とても引きつけられるものでした。

長崎市手をつなぐ育成会 あじさいの家 山内 春馬

## 第3分科会「働く」

第3分科会では、今回3人の発表がありました。北九州市手をつなぐ育成会事業推進課長 福田氏の発表は工賃向上の取り組みとして民間から採用した就労支援担当者を配置し、施設外就労を法人全体で強化した結果、工賃が全国平均よりかなり上回ったとの事でした。沖縄のてだこ工房 田中氏は事業を拡大しながら特徴を生かすことで利用者、支援者がともに楽しんで通える事業所が構築できるとの事でした。

3人目の上田氏は就労しながら一人暮らしを実践している方でした。支援者が「支援をし過ぎない、支援の工夫で経験を重ねる事が成功につながる、失敗することも成長のチャンス」と言っていたことがとても印象的でした。

長崎市手をつなぐ育成会 ワークあじさい 中平 さゆり

## 第4分科会本人会部会

180名程が参加し、「私たちは伝えたい」というテーマで行われました。10名の代表が、自分の暮らしや仕事、趣味のことなど含めたそれぞれの伝えたいことを話し、それに対しての質疑応答が行われました。その後20ほどのグループで、それぞれのテーマを決め夢や仕事、行ってみたいところなど、いろんな話題で意見交換をし、交流しました。

長崎市手をつなぐ育成会 吉井 裕子

### 藤田さんの発表内容

私は特別支援学校高等部を卒業後、家を離れました。みんなと一緒に行動するのが難しく自分に自信がありませんでした。就職先では仕事が遅いと言われましたが、自分のペースでいいと言ってもらいホッとしました。誰にも自分のペースがあるので、支援をする人はその人を信じて待ってあげてください。



発表する藤田匠美さん



# ながさき LOVE 地域で育成会！

がんばってま〜す！

こんにちは、  
新上五島町手をつなぐ育成会です！

新上五島町手をつなぐ育成会を紹介します。  
会員44名、内役員10名(会長・副会長・監事2名・  
理事6名)で活動しています。

5月の総会を経て、同月の長崎県障害者スポーツ大会への参加、会員交流事業として10月のバスハイク、12月のクリスマス会、それに3月は、町身体障害者福祉協会との共同で障がい者ブロック研修を開催しています。

昨年のバスハイクでは若松地区を訪問し、龍観山で弁当を広げ交流を深めました。今年は奈良尾地区でのバスハイク予定です。クリスマス会では、上五島福祉事務所の方を講師に招き現在の障害福祉に関する情報、課題等の勉強会を行った後、プレゼント交換を行っています。ブロック研修では、社協の生活支援コーディネーターを講師に招き事業の説明を聞きました。

「フライングディスク」は3年前から各事業のたびに行っている競技で、長崎県障害者スポーツ大会では会員が金メダルを獲得するなど、会員の相互交流や目標づくりにもなっています。

育成会の財源は会費・補助金が主となっていますが、身体障害者福祉協会が行っている福祉販売運動に協賛し、財源確保を会員みんなで行っています。

会員の高齢化、新会員加入減など様々な課題もありますが、会員一丸となって本人のため、またお互いのため活動していきたいと考えています。



『若松観山にて』



『フライングディスク』



『クリスマス会』

上五島福祉事務所の方を講師に招いて



『障がい者ブロック研修』  
生活支援コーディネーター

# 平成29年度 知的障害者相談員研修会



7月7日に佐世保市西地区公民館にて知的障害者相談員研修会が開催されました。「“障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例”の現状と課題」というテーマで長崎県障害福祉課高口大輔氏よりご講話いただきました。

前半は長崎県条例の制定までの経緯や、条例の概要、差別や不均等待遇などについて説明がありました。後半の、「合理的配慮の提供について考える」というテーマではどのような配慮ができるか自分たちで考え、実際の事例をご紹介頂きました。

合理的配慮には様々な工夫があり、障害特性や個々の思いにどれだけ応えられるかが重要になってくると改めて考えさせられました。

日々の業務に於いても利用者に寄り添い、思いを汲み取ることは大変重要だと思っています。少しでも利用者の思いを汲み取れるようコミュニケーションを積み重ねたり、努力していきたいと思っています。

(佐世保市手をつなぐ育成会 多機能型事業所 きらら 城川 千鶴)



講師 高口大輔氏

7月14日に諫早市社会福祉会館でも相談員研修会が開催されました。県北会場と同様、講師に長崎県障害福祉課の高口大輔氏を招いて、条例の概要の中身である目的、差別とは・不均等待遇とは・合理的配慮とはどういうことなのか、という詳しい説明がありました。また、差別を受けた人の相談体制、解決組織の存在と仕組みについても説明がありました。実は、自分はこの相談体制の中の地域相談員になっているので、とくに真剣に聞きました。合わせて、平成28年4月に施行されました障害者差別解消法についても説明があり、長崎県は差別解消支援地域協議会を設置しているそうです。今後の課題として、解りやすい資料や活動報告(相談事例)の作成をして周知手法を検討するという事でした。

後半は、「合理的配慮の提供を具体的に考える」と題して8つの事例を出されて質疑・応答がされました。事例の内容は、行政・教育・公共交通・雇用と就業・災害時でした。教育においては、発表でもありましたように個別支援プログラムが確立されているようですし、比較的配慮や工夫はし易いことだと思いましたが、公共機関での突発的な事故等の時の説明、雇用先でのジョブコーチの細かい支援、そして災害時の介助支援には、十分とは言えないと思いました。それこそ、今後の課題は、世間の方に周知してもらうことだと思います。これは、育成会活動の課題でもあるのではないのでしょうか。

(諫早市手をつなぐ育成会 土井 美由子)

## 知的障害児者・自閉症児者のための 生活サポート総合補償制度

この補償制度は、知的障害児者・自閉症児者の方が抱える様々なリスクを補償するために開発された制度です。

### 特長

- ①入院給付金は既往症の病気、てんかんも補償。
- ②個人賠償は最高3億円まで補償。
- ③年令にかかわらず、知的障害児者、自閉症児者の方であればご加入いただけます。

☆おすすめ Bプラン☆

- ★入院給付金 2日目から補償
- ★個人賠償 最高3億円まで補償
- ★ケガの入院を日額5,000円、通院を3,000円補償

(年間掛金) Aプラン：17,000円、Bプラン：23,000円

入院給付金 個人賠償責任保険金 葬祭費用保険金  
死亡・後遺障害・入院・通院・手術の各保険金

パンフレットのご用命は下記事務局または担当代理店へお問い合わせください。



(事務局) ながさき知的障害児者生活サポート協会

TEL：095-893-5503 FAX：095-814-1778

(担当代理店) ジェイアイシー九州

TEL：092-791-7561 FAX：092-791-7562



## 《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》12月まで

行 事	月 日	場 所	概 要
第4回全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会北海道大会	9月23・24日 (土・日)	ホテルロイトン札幌	23日 10:30～16:00 分科会 24日 9:00～12:20 記念講演など
障害のある人の 権利擁護・意思決定を支える ための推進会議	10月14日(土)	大村市郡地区公民館	13:00～13:20 開会行事 13:25～13:10 講話「意思決定支援について」 長崎国際大学教授 高島恭子氏
	11月3日(祝)	対馬市交流センター	14:15～14:40 事例発表 14:45～16:30 グループ討議など
知的障害者就労支援セミナー	11月30日(木)	長崎商工会議所	13:00～14:30 講話「はたらく障害者を支えて」 カフェバーカリーぷかぶか 代表 高崎明氏 14:40～16:00 働く本人発表 意見交換など
累犯障害者支援研修会	12月9日(土)	道ノ尾病院 みちのおホール	13:00～14:30 講話「累犯障害者を支援して」(仮題) (株)カンサイ建装工業 代表取締役 草刈健太郎氏 14:45～16:30 シンポジウム
無料法律相談	10月4日(水)	西海市 互隣の家	13:00～14:00 大村さくら法律事務所 弁護士 曾場尾雅宏氏 講話 14:00～14:30 質疑応答 14:30～ 個別相談
	11月21日(火)	諫早市社会福祉会館	
	12月11日(月)	壱岐市 会場調整中	



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者（本人・家族）に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。年間3,900円 B5版48ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

特別支援教育を必要とされている方のために生まれました。

広告

ぜんちの  
**こども傷害保険**

個人賠償 弁護士費用 ケガ入院・通院

- ◎ 個人賠償責任補償
- ◎ 権利擁護費用補償 (弁護士費用)
- ◎ ケガでの入院保障



特別支援学級に通う児童・生徒のために開発された、障がい児のための専用保険です。知的障がいや発達障がいのある子どもたちを、事故や虐待被害などからお守りし、安心した学校生活を送っていただけます。

詳しい資料のご用命は、下記代理店にお願いいたします。

○取扱代理店

有限会社 トータルサービス (担当: 向井)

TEL 095-832-2430 FAX 095-832-2580

〒850-0033 長崎市万才町6-35 三井生命長崎ビル5階

○引受保険会社

ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

〒101-0032

東京都千代田区岩本町3丁目5番8号

岩本町シティプラザビル5階

http://www.z-kyosai.com/

\*この広告は商品の概要を説明しております。ご契約の際には必ず「パンフレット」「重要事項説明書」をご確認ください。